

## 令和2年度第2回 高梁市行政改革推進委員会 会議要旨

日時：令和2年11月20日（金）10：00～11：05

場所：高梁市役所 3階大会議室1

### ○高梁市行政改革推進委員（敬称略）

出席者：中村宏史（委員長）、島一郎（副委員長）、宮田公人、平山寿男、  
小田弘人（中村正義委員代理）川本雅子、藤本和義、西井利光、齋藤圭介

欠席者：植木哲夫

### ○事務局

総務部長 佐藤仁志、総務部理財課長 山川映之、企画政策課参事 坂口正治  
総務部理財課課長補佐 小虎毅、総務部理財課行政改革推進係主事 高岡美沙希

## 1.開 会

進行：山川課長

## 2.あいさつ

中村委員長

## 3.議 事

- （1）補助金の見直しについて
- （2）令和2年度事務事業評価について
- （3）今後のスケジュールについて
- （4）その他

### 【事務局説明】

中村委員長）確認だが、補助金の見直しの中で、本日はこの制度的補助の単市による上乘せ補助の廃止とイベント等補助のイベント等の内容の見直しについて協議ということよろしいか。これは決定事項なのか。

事務局）決定というわけではない。予算の審議の中で議決をいただくということ

が最終的な判断になる。色々なプロセスを経て、ある程度の結果が出たので、今回報告をさせていただくものである。

**中村委員長**) こういう案でいきたいということで、これについてご意見いただくということで良いか。

**事務局**) そのとおりである。

**中村委員長**) ご意見、質問等があればお願いしたい。

### (1) 補助金の見直しについて

**平山委員**) 合併浄処理浄化槽の補助金について、来年から実施する形となっている。これだけ減額するのであれば、もう少し告知期間があってすべき。今からではもう間に合わない。告知期間が短すぎる。

また、説明の中で、「近隣市が」という話が多い。近隣は近隣のことなので、参考にはするが、高梁は特色のある方法をするのであれば、近隣はやめても高梁はするんだといった制度の見直しもしていかなければいけない。近隣がやめたから高梁もやめますという右にならえのような方法はいかなものかと思う。

**事務局**) 期間は柔軟に調整させていただく。

他市の例とすべての整合をとったというわけではないが、ただ全体的に、例えばニーズや当初の制度の目標、成果といったところから、俯瞰的に他市もみたというところである。

**平山委員**) 他市はというよりも、高梁市はこうなんですという形の削減のやり方をしてほしい。他市を参考にすることも良いと思うが、そこだけの方法はどのようなかと思う。

**事務局**) 他市がしていないから、全てしないというわけではない。整合的なところは判断の材料に一部している。

**平山委員**) もう1点言わせてもらおうと、各々の見方というのは切り口によって違う。正面から見ることは正しいかもしれないが、少し他所の面から見るような、柔軟な見方をしないといけない。正面からの切り口だけで見てしまうと、カットカットということになる。そういう見方の補助金のカットの仕方をしないと、一律的な方法にすごく感じる。

**事務局**) 全体的な見直しについては、一律であれば財政が厳しいので何%カットという手法もあるのかもしれないが、平山委員が言われたようにその辺りも考え

ていかないといけないだろう。全体的には制度自体が十何年経つ中で、普及もしてきた、ニーズも若干ではあるが減ってきた、全体的に総合的に見たというのが、今回の見直しの根底にあり、事務を進めてきたというところで、ご理解をいただきたい。

**平山委員)** カットを反対しているわけではない。仕方ない面もあるだろうが、例えば、ケーブルテレビ減免補助金の75歳以上の補助金のカットについても、致し方無いとは思いますが、高齢者も多いのだから、もう少し条件をつけたようなカットの仕方を考えても良いのではないか。できるかは分からないが、一律ではない方法もあって良いのではないかと思う。

**藤本委員)** 補助金をカットするにしても、メリハリをつけたカットの仕方があるのではないかと思う。例えば、合併処理浄化槽でいえば生活排水をきれいにして公共用水域の水質向上を図り、生活環境を良くするというような目的であると思う。更地で新築する場合には基本的に汲み取りをする人はいないと思うので、改修をして汲み取りから合併槽に変える場合とを差別化する。汲み取りから合併槽にすれば、件数が減り、し尿収集のコストは削減される。全体のバランスを見ながら考えていくという方法もあると思う。高齢者が多いので介護保険で住宅改修の制度もあり、その制度を使って介護負担を軽減していくようなこともできる。ただ単に合併槽だけではなく、生活をみて進めていく方法というのを考えてほしい。

**事務局)** 来年度から新しい総合計画もでき、特に定住対策をどうするのか、災害からの復興復旧、安心なまちを作っていくというような大きな柱もできる。行革の視点から見直しをしたところもあり、新しい予算編成や定住対策をどうするのかという中で、そういったところも目配りしながら、制度設計等、各課に情報共有をしながらできることはしていきたい。

**藤本委員)** 移住を進める場合に、当然トイレなどを改修したりする場合もある。そういう部分でも考えを入れてもらえたらと思う。

**西井委員)** ケーブルテレビ減免補助金で、減免制度を設けている市はないとある。全ての市で75歳以上の減免をしていないということか、全く減免をしていないということなのか。

**事務局)** ケーブルテレビの減免制度自体がないということである。極端に言えば、

高梁市は他市にならば、この制度自体を廃止ということも考えられるが、今回はNHKと比べて75歳以上だけ廃止と考えている。

**西井委員)** 上乘せ補助金ということで、見直しの項目が並んでいると思うが、その他のものには上乘せ補助金を市で行っているものは特にないということか。

**事務局)** 今回分類をして、事業費に対して国又は県が2分の1補助を出すという事業費補助や運営費補助というのはあるが、上乘せ補助というのは、さらに高梁市が利用促進、推進のために独自に上乘せしているものを上乘せ補助と呼んでいる。

**西井委員)** 上乘せしているのが、この5項目ということか。

**事務局)** そのとおりである。

**中村委員長)** 吉備ケーブルテレビの減免や老人クラブの上乗せ補助の廃止等、直接の当事者がいると思うが、話し合いや納得というのは、どのような感じになっているのか。

**事務局)** 今回この案でということになれば、担当課から関係者に丁寧な説明が必要になる。そこは今の高梁市の置かれている状況や全体的な状況を説明しながら、理解をいただく。本来は令和3年度からすべて実施ということで始めたが、決定が後ろ倒しになっていることもあり、特に実際に補助金を受けられている方は、令和4年度から始められるよう目標としている。1年間以上かけて調整をするが、具体的に説明していくのはこれからである。

**中村委員長)** やはり話し合いをし、折り合いがつきそうで、これらが決定していくことが重要なのかなと思う。当事者からすれば、いきなり補助金カットということになれば疑問が生まれるだろう。丁寧に進めてもらいたいと思う。

**藤本委員)** 遠距離通学(室)補助金の対象人数が15人というのは、全体の人数なのか。

**事務局)** 国の基準が現在4km、6kmに対し、高梁市が2km、4kmとなっており、その間にいる人数である。つまり、この見直しで該当になる人数である。

**藤本委員)** スクールバスを利用している人は、保護者の負担があるのか。

**事務局)** ない。

**藤本委員)** スクールバス運行経費との絡みはどうか。

**事務局)** その辺りを含めて、地域公共交通網形成計画の中でという話になってく

る。路線の必要性などと合わせて計画と一緒に考えていく。例えばこの辺りは児童が多いので、この路線はなくしてはいけない、スクールバスで賄えるのではないかなど、一緒に考えていく。

**藤本委員)** スクールバスの運行計画など含めて公共交通網形成計画と一緒に考えていくということか。

**事務局)** そのとおりである。

**平山委員)** イベント等補助金の見直し(案)について、減額に努めるとあるが、これだけか。

**事務局)** イベントも一律にカットという考えもあったが、地域の方がボランティアで頑張っている意欲に対して逆効果である。イベントの内容で問題点・改善点を一番よく知っているのは地元の方である。そういった中で、今市が置かれている状況を理解してもらい、改善点、改革点というのがあればセルフチェックの中で見直しをしてほしいというお願いをしている。例えば、駐車場料金の有料化や、企業の協賛を拡大できないか、担い手が少なくなる中で現在のイベント規模が適正なのか、将来を見据えて見直しができないかというところもお願いをしている。関係者で議論してもらい、意見交換をしたい。

**平山委員)** イベントを維持していくためには、いくら補助金が必要だが、やはりイベントをやりたいと思う地元の人から寄付を貰うぐらいでしていかないと長続きしない時代になっている。そういう広報の仕方もすべきかと思う。市民に呼びかけてしていかないと、駐車料金や協賛だけでは難しい。

**事務局)** 補助金ありきの事業規模になってきているようである。将来を見据えたイベントの考え方も含めて、この機会を契機にし、来年度から意見交換を進めていきたい。

**平山委員)** 何年度までにとこののを決めて進めた方が良い。

**事務局)** 補助金をどこまで削減すればよいのかということもあるし、目標がないとなかなか議論ができないというところもある。見直しをして何も変わらないとなれば寂しい面もある。例えば1割を目標とするなどを考えている。

**平山委員)** 具体的に言えば、成羽の花火はほとんど商工会がしていた。現在は成羽出身の指導員が1人いるだけ。来年は配置転換になり、分かる人が誰もいなくなり心配である。せつかく長年続いてきたものをやめるのは抵抗がある。やはり続けるためにはどうしたら良いのか、補助金よりもそちらの面が心配である。

事務局) 補助金からではなく、持続可能なイベントのあり方も含めて検討してもらおうようお願いしている。なるべく来年度中には、見込みの方向性を出すようお願いしているが、どのような形になるかは分からない。情報共有しながら進めていきたい。

平山委員) この件は、皆さんに関係してくるところであるので、上手に進めていただきたい。

事務局) 非常にデリケートなところであると考えている。

宮田委員) 合併浄化槽の件だが、資料の水洗化率や汚水処理普及率の浄化槽区域 63.4%というのは案外低いと感じた。特定環境保全公共下水道区域の変更をしたことにより、その部分がこっちに回り込んだことによりパーセンテージが下がったということなのか。

事務局) 約6割はあるので、低くはないと認識している。お年寄りの一人暮らしや、後継者がいない、改築ができないという方が残っていると考えている。若い方がいて、新築している方というのは、大体設置している。資料4ページに挙げているように、平成27年は73件であったのに対し、昨年度は50件を下回るような状況なので、ある程度は設置していると認識している。

藤本委員) 平成23、24年ごろは、足らない状況だった。

事務局) 確かに追加予算を組んだこともある。時期的なものもあるが、これをトレンド的にみると若干落ち込んでいるようだ。景気的なこともあると考える。

平山委員) 岡山県でみても、どこも減少傾向である。

藤本委員) 減少傾向だからやめるというのではなく、補助目的に対してどうかという点を考えてほしい。

事務局) 承知した。

藤本委員) 大きくは水質の改善で、生活環境の改善という目的があるわけで、それが達成しているのであれば必要はないだろうが、できていない場合は、そこをどう良いようにしていくかという方法を考えてもらいたい。

事務局) 浄化槽の補助金の見直しはこう考えているが、定住や水質の改善、生活環境の改善、公共用水域の保全などの違う面から考え、総合計画においても、課ごとに実施計画を掲げているので、情報共有しながら効果的な対策を検討したい。

藤本委員) 特に合併浄化槽区域は環境課のコストも関係するだろう。

**宮田委員)** 補助金の関係だが、一律で出しているなど、色々な考え方があると思うが、例えば松原地域はまちづくりの推進協議会があり、イベントにはお金は使えないが、あらゆる事業をする中において、いわゆる一定額は出すが、一定額は自分たちで準備しなさいというのを平山委員が言われたところなのかなと思う。出し方の工夫において、全てを自分たちでというのは厳しいかもしれないが、トータルの計画には予算が出てくるので、率は分からないが、1割程度は地元で何とかしてくださいであるとか、その出し方の工夫をすることによって、補助金ありきではないが、そういう方法論もあるのかと思う。出し方のルールも何か検討できないかと思う。

**事務局)** 確かに合併後から、この4つのイベントは、だいたい同じような金額での予算である。どうしても金額ありきの規模になってしまっているように見える。補助金の出し方、イベントのあり方、支えあいをどうするか、全体的な仕組みを変えていく中で、この補助金をどのように有効に活用できるのか、という点もお願いしたい。非常に大きな話なので、すぐにはということもあるが、歳入面で何か改革できないか、歳出についてイベントの規模はどうなのかという2点から始めて、イベントを続けていくためにはどうしたら良いのかというところもお願いをしている。どういった結果が返ってくるか分からないが、また方向がでたらこの会議でも話をしたい。

**平山委員)** まちづくりの補助金（※地域振興交付金のこと）は、この中に入っていないのか。

**事務局)** まちづくりの補助金は分類が異なるため、この中には入っていない。

**平山委員)** 思ったよりも、削減する金額が低いと感じた。どれほどの効果があるのかと思った。

**事務局)** 財政的な視点から見直しをしたというわけではない。高梁市の合併後から1次2次行革を激しく行った。目先の財政状況が悪くなることが分かっていたからであり、それに向け体力を温存するところから、かなり減量型を実施してきた。今回は少し視点を変えて、人口減少が続く中で、持続可能な財政運営をどうするのか、市民と行政の役割分担をどうするのか、大きめの目線からしている。効果額が沢山あれば良いという考えではない。仕組みを変えたいという考えから、こういった取り組みになっている。

中村委員長) 補助金は色々あり、非常に難しい取り組みになることが予想される。今回は、分かりやすいところから入ったという理解で良いか。

事務局) そのとおりである。

## (2) 令和2年度事務事業評価について

平山委員) 奨学金交付事業で決算が0円と説明があったが、お金の計画では、高梁市は人口減少に苦しんでいるが、教育に力を入れるという案も出ている。教育的なことももっと広めて、高梁は力を入れていることを良く分かるような制度にしてほしい。利用者が少ないというのではなく、アピールできるような形をとってほしい。制度を使ってもらえば、高梁が教育に力を入れていることも分かる。高梁はこれですというやり方をしてもらいたい。教育はお金をかけずに人を呼べるのではという話も出ていた。

事務局) 全体的にPRが少ない事業もあり、その事業内容としては非常に良いが、なかなか知られていないという事業も見受けれる。担当課とヒアリングする中では、周知はしっかりとしていかなければならない、良いものを持っていても知られていなければ意味がないことを、しっかり伝えている。平山委員が言われた教育も総合計画の中で、力強くしていく方向である。予算編成の中でその辺は考えていきたい。

中村委員) 事務事業は全部でどのくらいあるのか。

事務局) 200事業ほどである。平成29年度に抜本的に実施した。平成29年度実施分を除いた残りの事業について今回行い、一通りの事業の見直しをしたところである。

西井委員) 「高梁市農業試験研究施設利用推進事業」について教えてほしい。あと、200事業ある中でも、これが最後ということで、評価をする上で見直しから廃止まで、見直すという中で、基本的には継続ありきな感じが見受けられる。200事業の大部分がどうなっているか分からないが、メリハリをつける意識がどうなのかと、今回の資料を見る限り思う。

事務局) まず、農林課の事業について、旧川上農高の跡地に研究施設があり、そこをアグリテクノ矢崎(株)と協定を結び、高梁市の農産物の研究や開発に役立てるためにということで、貸している。どういった成果が出ているのか、ある程



度確認していく中で、高梁市がこれから目指すものについて、もう一度見直しをし、基本協定をする中でアグリテクノ矢崎（株）に何を求めるのか、今後どうしてもらおうのか、どれくらい費用がいるのかというのを、もう一度明らかにすべきではないかというところで提言を出している。この施設も老朽化が進んでおり、いつまでも修繕を対応していくのかということもあるので、全体的に見直しをすることで今回改善の方で上げている。

約200事業ということで、平成29年度時に大々的に実施しており、廃止事業15事業、平成29年度以降見直す事業7事業、その後に見直す事業20事業ということで、約40の事業をあげている。その時がある程度の事業をやっていたので、今回はその残りをして、今回こういった結果となっているが、ある程度見直しを行い、改善や廃止等を掲げている。

**事務局)** 事業の対象の方にとって、どのようなことが良いのかをまず確認する。その上で、全体の視点から、それができることなのかということ、成果の面と財政の健全化の観点から、考えていく必要がある。今度、総合計画をでき、その計画をもとに、施策ごとにそれを推進する事業があるので、それによって施策の目的を実現する事業を優先的にして、役割が終わったものについてはやめていくというメリハリをつけていくというように来年度は考えていきたい。

**齋藤委員)** 令和元年度の決算と令和2年度の予算額で大きく増額しているものがある。クラスサポート事業については、300万円近く増額している。これはニーズが高まっているという理解で良いのか。

**事務局)** クラスサポート事業については、支援員を配置している。決算と予算の違いは、支援員の人数の違いである。もちろんニーズは高まっているが、全体的に人数が限られている。1人の賃金で300万円ほど違うので、人数の違いである。

**小田委員)** 評価結果について、見直しとあるが、金額に対しての見直しか、内容の見直しなのか教えてほしい。現在、今後も高齢化が進む中、医療の発達で長生き時代にもなっている。そうした中、在宅で困難になったら介護施設へ入館しなくてはならなくなる。実際は、予約が多くて入れない状況にあると思う。ここに記載されている補助金の主旨はそこにあるのかなと思う。金額は902千円プラス予算になっているが、介護施設へ預けたいが、預けられない家庭も増えていく

と考えられる。今後、高齢化がさらに進み、介護に対しての補助金制度の優位性  
の見直し(金額含め)とと思っているが、それを含め見直しについて教えてほしい。

**事務局)** マイナスだけを考えているわけではない。市民課の市民相談事業でい  
えば、2か所を1ヶ所にする事で、もちろん経費は削減される。内容については、  
このままずっと合併後から見直しを行っているのか、その結果なのか、聞いてき  
た。見直しではない事業もあるが、今回を見直しのきっかけとして、現在の金額、  
状況でいくのかを考えてもらうというようにしている。地域福祉づくり推進事業  
についても、これから介護等が必要な時に老人ホーム等に入れられないということも  
あり、内部では要介護5で年額3万円というのは少ないのではないかという意見  
も出た。すべて削減というわけではなく、本当に3万円がいいのか、増やしても  
良いのではないか、というところも再度考えるきっかけとして事務事業評価をお  
こなって「改善」と事務局が意見を出している。

**事務局)** 補足だが、産後ヘルパー事業については、非常に利用が少ないというこ  
とで改善を求めている。担当課の方も要綱を変えて、退院後30日以内となっ  
ているが半年まで延長するといった制度改正をしている。金額的には86千円の予  
算であるが、来年度からは増えることもある。金額ではなく制度の見直しをした  
というところであり、すでにこういった動きをしているところもある。

**事務局)** 別観点の補足になるが、先ほどの地域福祉づくり推進事業について、現  
在の施策の方向性が在宅介護を進めるという方向性だが、現在の激励金を渡す  
というやり方だけではなく、他にももっと色々な工夫は他所でもしているし、高梁  
市に合ったものをぜひ工夫できないかと事業の在り方を考えるよう担当課にお  
願いをしている。総合計画で、在宅介護の方も、なかなかこれは在宅で見るとい  
うことは大変なので、どういう方向でいくのかというところを、計画を建てた段  
階、マネジメントの段階でまた見直しをかけながらしていくことになるが、まず  
は施策の方向にあった事業を、事業ありきではなく、考えてもらいたいという投  
げかけをしている段階である。

**平山委員)** この補助金というのは、補助金がなくなり次第終了ということなのか。

**事務局)** 原則は予算内でしてもらおう。ニーズを確認しながら、補正が必要であれ  
ばそこで対応していくことになる。

**平山委員)** 例えば、産後ヘルパー事業について、生まれる時期はさまざま。後か  
ら生まれたら補助金がありません、ということではおかしい。予算がなくなれば

終了というのではなく、柔軟に運用してもらいたい。

**事務局**) もちろん、市として子育て支援等は力を入れているので、そういったところには予算をつけていきたい。

**川本委員**) 在宅介護はやはり大変なので、もう少し増やしてあげることができれば良いのではないかと思った。

### (3) 今後のスケジュールについて

**中村委員長**) ご意見、質問等があればお願いしたい。

[なし]

### (4) その他

**事務局**) 本日いただいた意見を踏まえて、来週議会の方に報告させてもらい、方向性を決定していきたい。これについては、スケジュールにもあったとおり、また報告させていただきたいので、よろしくお願いします。

## 4.閉 会

島副委員長